

## 美浜町小中一貫校整備基本構想 パブリックコメントの結果について

### 1 実施状況

- (1) 募集期間 令和6年3月8日(金)～令和6年3月22日(金)  
 (2) 意見の件数 10件

### 2 意見の概要と町の考え方

いただいた意見・提言については、原文のまま掲載しています。

No.	ページ	意見の概要	町の考え方																
1	P2	<p>1-1-1 基本構想の目的について</p> <p><u>1 日本福祉大学(以下、「福祉大学」という。)キャンパス内に新設することに反対します。</u></p> <p>1-1-1 基本構想の目的では、「すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校※1を、福祉大学美浜キャンパス内に設置し、・・・」と記載されていますが、魅力ある小中一貫校にするためには、以下の理由により、<u>福祉大学のキャンパス内に設置することに反対します。</u></p> <p>※1美浜町が目標とする小中一貫校の種類は、過去の住民説明会の説明では、「小学校は小学校の卒業式」を、「中学校では入学式」を実施する学校であり9年生の学校ではない。」と回答を得ていますので、義務教育学校ではなく併設型小中一貫校のうち施設一体型、施設併設型又は施設分離型のいずれかの形態で対応が可能です。(「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」(平成28年12月26日。文部科学省)18ページ参照)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>義務教育学校</th> <th>併設型小中一貫校</th> <th>連携型小中一貫校 (設置者が異なる場合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設一体型</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>施設併設型</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>施設分離型</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		義務教育学校	併設型小中一貫校	連携型小中一貫校 (設置者が異なる場合)	施設一体型	×	○	×	施設併設型	×	○	×	施設分離型	×	○	×	<p>児童生徒数の減少に伴う小中学校の単なる統廃合ではなく、令和10年度を目標に、すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校を日本福祉大学内に設置し、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指しています。</p> <p>ご意見として承ります。</p>
	義務教育学校	併設型小中一貫校	連携型小中一貫校 (設置者が異なる場合)																
施設一体型	×	○	×																
施設併設型	×	○	×																
施設分離型	×	○	×																

**理由**

**① 町民や教職員の要望ではない可能性がある**

学校再編ワークショップ、住民説明会等過去の資料を見ますと、住民から福祉大学キャンパス内に小中一貫校の新設を希望する意見はなかったように見受けられます。場所については、当初アンケート調査が予定されていましたが、アンケートはされることなく第2回ワークショップで突然、町から候補地が大学以外ない旨の発言があり現在に至っています。納得していない町民が多いと思われます。少なくともアンケートをすることにより、町民の希望を確認する必要があります。その際、選択肢として、経費が新設するよりも安価にできる河和小学校と河和中学校の長寿命化工事による施設分離型小中一貫校を入れてもらいたいと思います。その際、要する経費約2.5億円を提示していただきたいと思います。

また、新設した場合の経費約4.5億円の代償として、住民がそれまで受けられていたどの事業を削減していくことになるのか説明を付してもらいたいと思います。

付け加えて、先日野間小学校の卒業式において校長先生と本件について教職員の皆様の率直な考えをお伺いしたところ、教職員としては、住民でもないことから、また業務多忙なこともあり、それに対しては、町が決めたことに従って新たな体制で教育をしていくだけですとの返事でした。すなわち、福祉大学キャンパス内に小中一貫校を新設することについては教職員の方々のご意見は、反映されていないように感じました。

本来であれば、児童生徒に直接教育をしている教職員の方々の意見を最も尊重して決めるべき案件だと思います。

**② 児童生徒の進路選択に影響大**

児童生徒は、小学校から中学校まで9年間、大学構内の施設を利用することから、楽しそうに大学生活を送る学生たちを目撃することも多くなると想像できます。その結果、入学試験という厳しい試練を受けるにあたり、福祉大付属高校、福祉大学などへの入学を進路の選択肢の一つに入れる児童生徒が増えることが予想されます。このこと自体が悪いことではありません。問題は、生徒たちが進路選択において幅広い選択肢があることを認識していても、ややもすると「福祉大付属校でいいか。又は、将来は福祉大学でいいか。」といった気持ちが芽生える生徒が、福祉大学内の学校に通うことにより、そうでない場合と比較し多くなることが予想されます。すなわち、生徒が中学を卒業するときの進路の選択に福祉大付属高校やその先の福祉大学へ選択する確率が高くなることは、否定できません。だからこそ、大学も無償で土地を提供したり、プールやその他の大学施設を提供したり、教授陣の派遣などに協力するのだと思います。

P5	<p>このように大学内に学校を新設することは、中学卒業後の進路選択に影響を与えることになると思います。</p> <p>福祉大学、同付属高校を選択することが良くないという意味では決してありません。福祉が重要なことは十分理解していますが、生徒の進路選択においては、多種多様な選択肢に影響を及ぼさないような環境が必要と考えます。</p> <p>1)児童生徒数の減少に伴う学校小規模化、2) 学校施設の老朽化、3)町の財源不足について</p> <p><b>③ 町の財源不足に対する最善策は、河和小学校及び河和中学校の長寿命化による小中一貫校</b></p> <p>美浜町の学校施設の課題については、内容の詳細は省略しますが、下記のとおり記載されています。</p> <p>1) 児童生徒数の減少に伴う学校小規模化 2) 学校施設の老朽化 3) 町の財源不足</p> <p>これに対し、学校再編の枠組について、小学校については、「布土小学校、河和小学校、野間小学校、奥田小学校と上野間小学校を10年度に<b>新設の小中一貫校へ統合</b>します。」と、中学校については、「河和中学校と野間中学校を令和10年度に<b>新設の小中一貫校へ統合</b>します。」と記載されています。</p> <p>上記課題を解決するための対策としては、小中学校の統廃合が必要なことは理解できますが、町の財源不足を考えるならば、新設ではなく文部科学省が公表している「学校施設の長寿命化計画策定にかかわる手引き」4ページに記載されているとおり、学校施設の「耐用年数」の長寿命化を図り、「費用の削減、工期の短縮」、「教育環境の確保」、「環境負荷の低減」等を進めていくべきです。具体的には、「美浜町公共施設等総合管理計画」（平成30年3月）に基づき、河和小学校及び河和中学校の長寿命化工事を進め、この2つの学校で小中一貫教育をする方が経費が安くすみます。具体的には、新設に要する経費約4.5億を、約2.5億に軽減できます。</p>
P9	<p>また、この2校で児童生徒の収容も可能です。</p> <p><b>2-2 特色ある美浜の教育の推進について</b></p> <p>3)小学校1年生から中学校3年生が同じ空間で学校生活を送る施設一体型の小中一貫校の長を生かす教育を推進します。について</p> <p><b>2 小学校1年生から中学校3年生が同じ空間で学校生活を送る施設一体型の小中一貫校の変更</b></p>

		<p>「小学校1年生から中学校3年生が同じ空間で学校生活を送る施設一体型の小中一貫校のよさを生かす教育を推進します。」と記載されていますが、前項の理由により、<b>施設分離型の小中一貫校への変更</b>を要望します。</p> <p>3 その他</p> <p>元役場職員として、皆さんには大変お世話になっていましたので、あえて率直な意見を記載しました。このまま、運動公園のときのようにある意味強引に進めても、当初は大きな問題は発生しないと思われませんが、新教育体制の中で卒業していく児童生徒に、私が危惧するようなことが発生した場合、その時点では、美浜町の学校は1つしかありませんので、若い世帯が他の市町に移転していくことも懸念されます。その意味でも住民アンケートはしておいた方が良いのではないかと考えます。</p> <p>ご検討よろしく申し上げます。</p>	
2	<p>P2</p> <p>P5</p> <p>P9</p>	<p>1-1-1 基本構想の目的</p> <p>1-2-2 美浜町の学校施設の課題</p> <p>2-1-1 学校再編の経緯</p> <p>「美浜町小中一貫校整備基本構想(案)」(以下「整備基本構想」)には、その目的として「本基本構想は、美浜町小中学校再編について、これまでの各種計画や検討内容をふまえ、新たな小中一貫校の整備及び事業実施に向けた基本構想を策定するもの」(p.2 1-1-1 基本構想の目的)と記されている。更に、現状は「児童生徒数の減少に伴う学校小規模化で、クラス替えができない、小規模校では切磋琢磨できない」「本町の保有する学校施設の老朽化は著しく進行している一方で、修繕費等の増加による多大な財政圧迫が予想」させる (p.5 1-2-2 美浜町の学校施設の課題) ため、全町の小中学校を統廃合し、小中一貫校1校を新設することが「方針として決定され」た、と述べられている (p.6 2-1-1 学校再編の経緯)。</p> <p>しかし、「これまでの各種計画や検討内容」が町民にとって「ふまえる」に値するだけのものになってきたか、とりわけ「方針として決定され」という認識が正しいのか、ということについて大きな疑問を呈するものである。</p> <p>そこで、この間の学校再編についての経過を振り返り、問題点を指摘し、今回の学校再編案を中止していただきたい旨を述べる。</p> <p>以下、長文になるため用紙を別にして (A4で7頁) 意見を述べることをお許しいただくとともに、ぜひ最後まで読んでいただきたいと切に願うものである。</p>	<p>児童生徒数の減少に伴う小中学校の単なる統廃合ではなく、令和10年度を目標に、すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校を日本福祉大学内に設置し、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指しています。</p> <p>別紙も含め、ご意見として承ります。</p>

3	<p>P5</p> <p>1) 児童生徒数の減少に伴う学校小規模化について</p> <p>大学内に小中一貫校を作るアイディアは素晴らしいと思います。しかし、河和小を残した方が美浜町のためになると考え意見を申し上げます。</p> <p>少子化が進み子どもが少なくなっている為、国の適正規模を維持できない学校が廃校になることは理解できます。</p> <p>しかし、適正規模の学校も廃校にするというのは行政の住民サービスとして本当に正しいのか今一度考えて頂きたい。</p> <p>国の適正規模とは12～18 クラスです。現在の全小学校の通常級生徒数は3842 名であり、これは※25 クラス以上が必要ということを意味します。そのため、大規模校になり、適正ではありません。現在の河和小は通常級426 名13 クラスの適正規模で、それ以外の学校の416 名で新設校を作れば12 クラス以上で適正規模です。さらに少子化が進んだとしても、2 校の場合はそれぞれ240 名程いれば適正規模を維持できるので河和小をそのまま残すべきだと考えます。</p> <p>※改正義務教育標準法 35 人学級計算、支援級77 名除く</p> <p>そもそも、河和小が426 人居て他が98～108 人しか居ないというのは、河和学区が子育てに向いた土地だからだと思います。</p> <p>子育て世代は働いて納税していても時間がない為に声なき声となりがちです。誰も何も文句を言わないからと言って、美浜町の中で比較的上手く行っている学区からも学校を無くして衰退が加速した場合、町は責任を取れますか？</p> <p>町は責任を取る必要はなく、単に「適正規模校は残す」という判断をするだけです。リスク分散しましょう。</p> <p>小中一貫校が最初から成功するとも限りません。コントロールするなら規模は小さい方が良いでしょう。大学側との試行錯誤によって成功パターンが完成した後、河和小が適正規模から外れるほど少子化が進めば新校へ併合すれば良いのですし、新校が失敗した場合のバックアップとして河和小が機能すると思います。</p> <p>また、バス移動の問題もあるかと思いますが、河和小を残せば、小学生6 割弱の400 人以上をバス移動させる必要が無くなります。これは大きなメリットです。そして、河和小は高台に建つので防災拠点としてもすぐれています。</p> <p>廃校にしたら別の防災拠点を整備する必要が出ませんか？</p> <p>適正規模校まで廃校にしなければならぬほど、町の財政が切迫しているのならどこか予算配分が間違っているのではないかと思います。</p> <p>以上、小中一貫校を作ることには賛成ですが、今のところ、河和小を残すべき理由があ</p>	<p>児童生徒数の減少に伴う小中学校の単なる統廃合ではなく、令和10 年度を目標に、すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校を日本福祉大学内に設置し、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指しています。</p> <p>ご意見として承ります。</p> <p>通学の問題については、あらゆる通学手段の中からより安全に通学できる方法について検討していきます。</p>
---	--	---

		ると考えます。	
4	P5	<p><b>構想案該当 1-1 基本構想の目的と方法</b></p> <p>3月1日に開催された町政説明会で、河和南部小学校の跡地の町への財政的還元が知りたくて発言させていただきました。納得できないので、意見を言います。</p> <p>1-2-2 美浜の学校施設の課題、2) 学校施設の老朽化から3) 町の財源不足について</p> <p>1-2-2 学校施設の課題 2) 学校施設の老朽化 3) 町の財源不足 これらの実態があることを打破する必要があるのだということは分かりました。しかし、だから新しい施設を作ることで解消されるという構想なのかもしれませんが、具体的にどこからどのようなお金を工面するのか、その方法が欠けていると思います。</p> <p>学校の跡地は、町の財源として期待したいところです。</p> <p>ところが、河和南部小学校は閉校しましたが、なんら財源になっていないとのこと。どうしてそういうことになったのか、町だよりも掲載して欲しいです。</p> <p>不動産の売買で、古家付きという物件はよくあります。その古家の使用の可否を問わず、更地にするしないも問わずということだと思います。そして、更地にする費用を考慮した価格にするということはないと思うのです。</p> <p>ところが、河和南部小学校は 更地にする費用を考慮して土地価格から引くと無償譲渡ということになったとのこと。おかしいと思います。他にも、マグネティクス社に代わって負担した費用もあるとも、耳にしました。</p> <p><b>3) 財政不足 の目的に反していませんか？</b></p> <p>マグネティクス社は、河和南部小学校の「古家」を取り壊しも更地にすることもしていません。建物はかなり改修をされたのだと察しますが、賃借すらできるものとしてお使いです。町は建物の価値ですら、正当に評価できていなかったということに思えてなりません。町の財産を 正当な査定をして処理されているのでしょうかと、他の学校についての処理も不安に思えてなりません。財政を理由、目的に挙げながらの構想。今の段階の予算を併記してみてください。後になって、もっと町の財政負担になりかねないと、疑問を感じます。</p>	<p>児童生徒数の減少に伴う小中学校の単なる統廃合ではなく、令和10年度を目標に、すべての児童生徒が通学する魅力ある小中一貫校を日本福祉大学内に設置し、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指しています。</p> <p>学校の跡地利用については、今後検討を進めていきます。</p>
5	P7 P9 P 16 及び全体	<p><b>基本コンセプトの3つ目</b></p> <p>-地域とともにある学校づくりについて-</p> <p>町内には赤ちゃんから高齢者、病気を患っている人、障がいを持っている人などいろいろな人が住んでいます。その中で聞こえない方は日常的に情報から取り残されている</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

	<p>状況にいます。聞こえない方とコミュニケーションを取る方法はいくつかありますが最も有効な方法の一つは手話です。手話言語を学ぶことはその歴史、成り立ちをとおして聞こえないという困難さを知ることです。支援が必要な子どもたちの中には手話を必要とする子どももいます。また手話を学び町内外の地域の中にいる聞こえない方とコミュニケーションがとれるということは、障害者問題、人権問題、多様な人が住む共生社会を作ることについて考えることにもつながり、美浜町の新しい学校作りの目標にもつながっていくと思います。そのためには手話言語を教育の場である授業に取り入れることに早急に取り組み、プログラムの検討・計画をお願いします。教員も含めて小学校1年生から少しずつ手話に触れ中学校3年生までに手話でのコミュニケーションができるようにする。その後は日本福祉大学との連携により手話の高度な技術と専門性を高めるための学習の場を大学に備え人材の育成を継続する。将来は一貫教育を経験した子どもたちが、誰もが情報にアクセスできる町、また誰もがコミュニケーションに困らず人にやさしい町に住み仕事ができるよう町全体で子どもたちを育てていく。だれひとり取り残さない教育をとおして、だれひとり取り残さない町になるよう、これからの時代に合った教育の実現を是非ともお願いします。</p> <p><b>子どもたちのコミュニケーション能力を高めるために</b></p> <p>現在、手話に関する取り組みは障害者総合支援法に基づいて手話奉仕員養成事業・手話通訳派遣事業・手話通訳者設置事業などが行われています。これまで手話は障害の面からのアプローチでしたが、これからは手話言語法の下で手話言語として学ぶという教育の面からのニューアプローチが必要です。あくまでも教育機関の中で子どもたちに学習する時間を作ることがポイントになると思います。また言語は毎日触れながら覚えるよりも効果が表れるものです。一日の中の5分間でいいのでその言語に触れる時間を学校の中で確保する。また覚えた言語(例えば英語や手話)は実際に使うことがとても大事です。9年間を通して段階的に年齢に応じたプログラムでレベルアップしながらコミュニケーション能力に磨きをかける。美浜で育った子どもたちが卒業したあとは、自分に自信を持ちコミュニケーション能力を発揮できる、そんな教育・学校づくりを期待しています。</p> <p>手話言語について下記を参考にいただければ幸いです。</p> <p>全日本ろうあ連盟パンフレット『手話言語法の制定へ！手話言語でGo3!』(jfd.or.jp)</p>	
6	<p>P9</p> <p><b>2-2 特色ある美浜の教育の推進について</b></p> <p>3)「施設一体型の小中一貫校のよさを活かす教育」のうち、以下の要素は追加できないでしょうか。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

P13	<p>・小学生の先取り学習や中学生の遡り学習支援 「エコスクール」に関しては、ワークショップでの議論はほまほまなかったかと思います。鈴木先生からの提案でしょうか。 (意見ではありません)</p>	<p>P16 3) 教育的支援の必要な子ども 「特別な支援を必要とする子どもや日本語教育を必要とする子どもなど、教育的支援の必要な子どもたちが心地よく過ごせる生活・学習環境を整えます。」と表記を変更します。</p>
P16	<p>3-4-1 3) 「教育的支援の必要な子ども」について 障がい児を想定するだけでなく、(現状は不明ですが)「外国にルーツを持つ子ども」の教育的支援が必要であり、記載の追加。</p>	<p>P17 「学習センター」については、調べ学習ができる交流スペースを想定していましたが、「図書室」に変更します。</p>
P17	<p>「学習センター」の内容が不明 3-4-3 2) 多様な学習環境について 多様な学習環境として、「シンガポール提携校との交流学習」が追加出来ないか。(英語学習の特徴) 多様な学習環境として、「放課後学習」追加 (第2回WS 意見)</p>	<p>2) 多様な学習環境について 特色ある教育としての国際交流も含まれますが、学習環境の整備としての表現はこのままとします。</p>
P18	<p>4 事業スケジュールについて 現状では具体的な建設場所が確定(日福側と合意)しておらず、実現が厳しいようにも思います。事業スケジュールに縛られて、肝心の教育内容の質を高めるための準備や、子どもたちにとってよりよい教育環境を目指すという本来の趣旨を疎かにして進めることのないようにお願いします。</p>	<p>「放課後学習」については、P14 子育て支援機能で対応していきます。</p>
全体	<p>まず、この基本構想(案)は「夢づくりワークショップ」、「学校づくりワークショップ」での議論をベースに作成されていますが、それが全てではない、そこでの意見が絶対的に正しいわけではない、これをもって他の意見を否定しないことを前提としていただきたく思います。理想的な将来像を追い求めることはまず大切ですが、学校再編保護者アンケートなどで出た現実的な意見も配慮すべきと思います。</p> <p>町政報告会や学校再編住民説明会などで様々な意見が出ていますが、現役の子育て世代以下の年齢層の意見を尊重すべきと思います。PTAや保育園保護者らとの説明会・意見交換、座談会などされていますが、そこでの意見を重視した方がよいかと思います。あとは子どもたち自身(現役の小中学生含む20歳未満の方(転出者含む)など)の意見も聞く機会が必要と思います。</p> <p>私自身の考えも、現役の子育て世代の意見を聞いても、近い未来での小中学校の再編は必要だと思っています。あとは、①財政面だけでない小中一貫校のメリットを現役子育て世代に理解してもらうこと、②日本福祉大学とコミュニケーションをしっかりとって歩調を合わせること、③役場が日福大と合意のうえで基本方針を示し、設計・建設・建築など専門知識が必要な部分はその道のプロに任せて進めることが大切であると考</p>	<p>今後も現役の子育て世代のみなさまとの対話や意見交換の場を持ちたいと考えています。また、学校現場の声も広く取り入れ、協議してまいります。</p> <p>今後、事業を実施していくうえでのご意見として承ります。</p>



	<p>えます。</p> <p>令和6年度当初予算案には基本設計の予算が盛り込まれていましたが、これに関して文教委員会を含めた議会での議論は町議会議員の責任でありますが、十分ではないと感じました。本来、美浜町の重要課題である学校再編は、町議会での議論を尽くし、町議会議員の理解・同意をもって進めていくことが不可欠です。また議会や議員活動を通じて町民の意見を集約しつつ、理解を広めていくことが大切だと思います。(町議会に対しての意見です)</p> <p>町民に対して積極的な情報提供・説明をお願いします。町政報告会や学校再編説明会を開催し、説明いただいています。参加人数は限られていること、関心あるリピーター(特に高齢者)中心であること、現役子育て世代の参加は少ないと思います。中長期的な重要課題であり、関心が薄い父兄に対しても、繰り返しでも情報提供・説明を行っていただき、理解を得て進めていただきたいと思います。(役職でワークショップに参加するPTA会長・副会長だけでは理解は深まりません。誤った認識を持つ父兄も多いです。)教育委員会で対応されているとは思いますが、現役の先生方の意見も聞いていただきたいと思います。(運営・管理面でのご苦労も多いかと)</p>	
7	<p>P10 図2 施設設備の考え方 2. みんなの学校、2-1 安全と安心 3) 防犯対策について</p> <p>1) 児童生徒の皆さんと地域の方々、また、幅広い年齢の方々との交流の機会も増え人の往来が多くなるかと考えられ、児童生徒の皆さんの心身の成長に大きく寄与する学校が誕生するかと思います。そんな中、あってはなりません、不審者の侵入による事件事故に児童生徒の皆さんが巻き込まれることの無いよう、しっかりとした防犯対策を講じること、また、防犯教育の機会を設けていただきたいと思います。</p> <p>P14 3) 子育て支援機能 図5 地域による学校支援、図6 地域学校協働本部の環境について</p> <p>2) カフェ・喫茶について</p> <p>子ども食堂は設置されても良いかと考えますが、カフェや喫茶は不要かなと考えます。設置した方がいいが、採算が合わず、撤去することにならないか心配です。やるとしても、日本福祉大学内にある学食やカフェテリアを開放する、バージョンアップするとかかなと考えます。</p> <p>既に事務局さんでも確認されているかとは思いますが、小中一貫校を初めて導入した広島県呉市や先進自治体の例を参考により良い事業にしていいただけるように願っております。</p>	<p>P13 防犯対策</p> <p>防犯対策について掲載しています。</p> <p>不審者対応訓練をはじめ安全教育については、現在も実施しています。</p> <p>P14 図5・6については、ワークショップの意見を原文のまま掲載しています。</p> <p>全国の自治体の先進事例を参考に事業推進していきます。</p>

8	全体	<p>あまり情報を調べておらず、既出、説明済みの内容でしたら申し訳ありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の学校を維持していく場合、東西の二つに統合する場合と今回方針とでそれぞれできることできないことが整理されたものがあれば共有いただきたいです。町の財源不足については具体的な金額があるとわかりやすいのですが。</li> <li>・令和10年4月の理由がありましたら教えてください。</li> <li>・小中一貫校のデメリットがあれば教えてください。 (6年生が学校の最上級生にならない? など)</li> <li>・陸上競技場は知らない間に建設が決まっていた印象があります。</li> </ul> <p>今回の小中一貫校については実際に通うことになるお子さんや、保護者の方の声がもっとも多く集まり、町民の多くが納得できる形で進むことを願っています。</p>	<p>学校再編の経緯についてはP6に記載してあります。詳細については、ホームページで関連内容をご覧ください。</p> <p>保護者との対話の機会を設けます。</p>
9	全体	<p><b>ギフテッド、犯罪予備軍、不登校児の特別プログラムを小中一貫校の中に取り入れてください。</b></p> <p>脳科学の進歩に鑑みると、12歳(小学校卒)で才能や能力は顕著になると言います。クラスの中でも特筆すべき才能を示す子がいます。ギフテッドと呼ばれる子たちです。約6%存在するというのですから70人ぐらい想定されます。彼らの才能を豊かに伸ばす教育体制を作り、将来美浜町に貢献する人材に育成し、今までのように他市他府県に貢献する逸材として育てるのではなく、美浜町を救済する人材として温かく育てるのです。学校教育は元のこと地域サロン、多世代交流、創作・趣味の場や大学教員との交流の中で逸材を発掘し、支援のプログラムを立ち上げるのです。この中から1人でも美浜町のために骨身を惜しまず命をかけて働く人物が現れれば美浜町は劇的な変化を遂げるでしょう。</p> <p>また、12歳と言えばこの子は犯罪を犯す要素を持っているという子も顕著になります。その子のための大人の支援体制も必要です。できれば、警察官やホワイトハッカーとして刺激の多い世界でも活躍できる人材になってくれれば最良です。</p> <p>さらに、不登校の子たち、いわゆる学校に適応できない子たちのためにも自立のプログラムを作成し、学校外でも教育し、大学に入学し、仕事を持って税金を払える人になってもらいましょう。これら、才能や能力が目立つ人たちは上記のように新たなプログラムを導入します。残り1000人の一般児童については、従来の学校教育を続けますが、ギフテッド、犯罪予備軍、不登校児童の活躍を見れば、集団そのものが自分の将来を輝かそうと意識的になるものと思われれます。</p> <p>その次の中学生では、まさに、社会で才能を実践してもらおうプログラムを作っていくのです。利益を上げるグループが出れば、町政に還元してもらおうのもいいと思います。</p>	<p>P9 特色ある美浜の教育の推進 「ふるさと美浜」に誇りと愛着をもつ、特色ある美浜の教育を推進していきます。</p> <p>ご意見として承ります。</p>

10	全体	<p>2/25の町政報告会に参加した者です。その質疑応答では学校再編の件で多くの時間が割かれていましたが、私が聞いていて感じたのは、学校再編を進める行政の皆さんの進捗状況と、町民の皆さんの意識との間に大きな隔りがあるように思いました。このままでは、町民が置き去りになって終いかねません。本来であれば町民の皆さんに歓迎されるべき事業が、逆に町民の不満や不安となっており、これはとても悲しい事です。(私自身は小中一貫校に賛成です)</p> <p>今からでも遅くはないと思います、このギャップを埋める努力をしないと、いつまで経っても話が前に進みません。町民全員の合意は不可能ですが、町民の皆さんが希望される学校作りに期待を寄せるよう、一人でも多くの町民を前向きな気持ちに変えていく必然性を痛感します。</p> <p>その為には、何をすべきか？ 校舎の老朽化や児童・生徒の減少数で、推し進めては逆効果です。町民に向けて、大学と連携した小中一貫校の素晴らしい所を、もっと積極的に且つ大々的にアピールすべきです。例えば「大学教授と連携した授業作り」では単なる紹介ではなく、その教授の具体的な専門知識を紹介した上で、それを生かした今までに無い新しい授業を児童生徒に提供する事が可能になる等、具体的に丁寧な説明が必要です。また今まで開催してきたワークショップで出てきた町民の意見を紹介して、その意見を反映した計画案を具体的に説明すれば、町民の意識が脇役から主役になります。更に児童・生徒のアンケートの結果で多かった意見を一貫校に積極的に採り入れる事例を紹介すれば、「よし！子供らの為にかんがるか！」考え方が変わるのではないのでしょうか。</p> <p>逆に欠点を伝える事もまた大切です。視察した一貫校で発生した問題を紹介して、それを未然に防ぐ具体案を丁寧に説明する事で、町行政の信頼性が高まります。</p> <p>町民へのアピール方法も変えましょう！ 2/25の町政報告会の時もそうですが、このような住民説明会等に参加する度につくづく思うのは、出席者の大半が高齢者だということです。小中一貫校の問題なのに、これでは主役が不在です。来ないので良いではなく、来ないのなら行きましょう。時間に追われる子育て世代に積極的に新しい小中一貫校を紹介すべきです。保護者が来校する各学校での授業参観・運動会・学芸会等で新しい学校の進捗状況紹介コーナーを設けたり、児童生徒全員に新学校紹介プリントを配るのも有効的な手段です。また、タウンマラソン大会や商工会祭りでは、一貫校の特別ブースを設けて、町民との直接対話や交流を行えば、町民の本音が聞けるかもしれません、ひいてはそこから素晴らしいアイデアが広がるかもしれません。また、町内広報にも大きく取り上げるべきだと思います。</p>	<p>今後、事業を実施していくうえでのご意見として承ります。</p>
----	----	--	------------------------------------

	<p>敷地は伊勢湾を望む高低差のある丘陵地とあります。可能であれば敷地の見学会の開催を提案します。現地からの広大な景色と共に、新しい学校への展望も広がると思います。ただし、来られない人の為に、町内広報への掲載もお願いいたします。</p> <p>日本福祉大学との共同作業で、この構想は進んでいきます。次回、一貫校の説明会開催時には、町政関係者のみならず、是非とも日本福祉大学の関係者の方の御出席を切に希望します。日福関係者のこの事業に懸ける思いもお聞きしたいです。</p> <p>応援しています！！頑張ってください！！！！</p>	
--	--	--